

## V. 特記事項

### 高大接続教育の充実について

近年、高等教育の高まりと広がりを受けて高等学校と大学の教育の接続を円滑にしようという動きが活発である。この動きの一つは大学に入学した直後の教育（一般に初年次教育と呼ばれる教育）の実施である。この教育は、教育理念を初めとして、大学の教育方法や学生支援体制などを具体的に紹介し、学生の大学への愛着心を掻き立てるとともにスムーズにキャンパスライフが展開できるような内容を持った科目やディプロマポリシーの達成に向けた基盤力を養う科目などで構成されている。本学においても初年次教育科目「あすなろう」を、平成 21 年度から開設した。地域でのボランティア活動を核に学生主体の授業は、文部科学省の大学生の就業力育成支援事業に選定され、大学を挙げて推進している。

高大接続の円滑化に関するもう一つの動きは、高校時代に大学の授業やキャンパスライフを体験させようという試みである。高校生に大学を開放したり、高校生を大学の授業に招待したりと様々な形で展開されている。佐賀県で唯一の私立総合大学である本学は、地元的高等学校から高校生に「大学とはどういうものか」を理解させたいとの要望が強く寄せられ、平成 21 年 12 月に佐賀清和高等学校と高大連携に関する協定を結び、土曜日に大学を開放するとともに各学科の授業を受けてもらう試みを始めた。この授業は「ポルタ」と呼ばれ、今年度で 15 年目を迎えている。「ポルタ」の日は、佐賀清和高校の 2 年生の約 200 名が本学の 3 キャンパスに分かれて来られ、大学の説明を受けた後、各学科の学生に引率されて授業を受けるとともに校舎内の施設の見学を行う。そして、教員や在学生と懇談して、大学の雰囲気を感じることになる。

上述の前段の授業の更なる充実を図ろうとしていた矢先にコロナ禍に遭遇し、地域ボランティア活動を休止せざるを得なくなった。そこで、高大接続の他の手立てとして、「生徒に大学の授業を」との高等学校側の要望を生かす方向での検討が、教務部長を中心として始まった。これは、18 歳人口が減少する中で、本学は地域と一体化した学びや研究を行う大学への進化が必要であるとの考え、さらには、そのためにはできるだけ早い段階から本学を知ってもらった方が良いとの考えによるものである。その基本には、平成 25 年に行った「地域大学宣言」がある。また、本学も地域の高校生の育成に一定の役割を果たすべきとの考えも加わり、要望のある地域の高等学校と連携協定を結び、高大接続を充実することにした。年 1 回の協議会を持ち、高等学校との意見を交換するとともに、その高等学校の卒業生の大学での成長ぶりを知ってもらう機会を設けた。この協議会の席上、「高校生が大学の授業を受け、入学後はそれを大学の単位として認める」との案を出したところ、高等学校側は、もろ手を挙げて賛同された。この結果、高等学校在籍中に大学の単位を修得し、本学に入学してからはその単位を大学の共通教育単位とするシステムが出来上がった。大学から提供する科目は、高大接続科目とし、全学科を網羅している。この制度を生かして、令和 5 年度には看護学科が提供した「看護へのとびら」を 26 人が受けられ、そのうちの高校 3 年生の 4 人が令和 6 年度に本学に入学し、共通教育の単位として登録している。このように、高校時代から自分の夢に向かっての歩みが可能となる教育システムを高等学校と一緒に作ることができた。これは、上述の高大接続の円滑化の後段の部分を推進する力強い一歩である。令和 6 年度は、より充実した形で展開される。

◆エビデンス集（資料編）◆ 【資料 V-1】～【資料 V-8】